



⚠ ご使用の前には必ず取扱説明書をよく読んでください。

取扱説明書

GEAR

BX50N

10B-F8199-JC

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（スクーターをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警告	取り扱いを誤った場合、死亡、重傷・傷害に至る可能性が想定される場合を示してあります。
注意	取り扱いを誤った場合、物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」「車両受け渡し確認書」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために.....	1-1	日常点検.....	4-1	灯火装置および方向指示灯の 点検.....	6-14
あなた自身のために.....	1-1	日常点検の実施.....	4-1	運行において異常が認められた 箇所の点検.....	6-14
歩行者と他の車のために.....	1-5	日常点検箇所／点検内容.....	4-1	こんなときは.....	6-15
環境・住民の方との調和のために.....	1-6				
各部の名称.....	2-1	運転操作.....	5-1	車のお手入れ.....	7-1
左側面.....	2-1	エンジン始動.....	5-1	洗車.....	7-1
右側面.....	2-2	発進.....	5-2	保管のしかた.....	7-2
運転装置と計器類.....	2-3	加速と減速.....	5-3	アフターケア用品について.....	7-3
各部の取り扱いと操作.....	3-1	ブレーキ.....	5-4		
キーの取り扱い.....	3-1	ならし運転.....	5-4	製品仕様.....	8-1
メインスイッチ.....	3-1	駐車.....	5-5	ユーザー情報.....	9-1
キーシャッター.....	3-3	点検整備.....	6-1	二輪車を廃棄する場合は？.....	9-1
警告灯と表示灯.....	3-3	点検整備の実施.....	6-1	サービスマニュアル（別売）の 紹介.....	9-2
スピードメーターユニット.....	3-4	カバーの取り外し、取り付け.....	6-2	車両情報.....	9-2
ハンドルスイッチ.....	3-5	エンジンオイル.....	6-3		
フロントブレーキレバー.....	3-6	ファイナルギヤオイルの交換時期.....	6-4		
リヤブレーキペダル.....	3-6	エンジンのかかり具合、異音の 点検.....	6-4		
フューエルタンクキャップ.....	3-7	低速、加速の状態の点検.....	6-4		
燃料.....	3-8	冷却水.....	6-5		
キックスターター.....	3-8	冷却水の補充.....	6-6		
シートの開閉.....	3-8	エアクリナーエレメントの交換.....	6-6		
ヘルメットホルダー.....	3-9	タイヤ.....	6-7		
書類入れ.....	3-9	ブレーキレバーの遊び／ブレーキ ペダルの遊び、およびブレーキ のきき具合の点検.....	6-9		
フロントバスケット.....	3-9	ブレーキシューの摩耗点検.....	6-10		
コンビニフック.....	3-10	バックミラー.....	6-10		
リヤキャリア.....	3-10	車体各部の給油脂状態の点検.....	6-11		
パーキングロック.....	3-10	バッテリー.....	6-11		
スタンディングハンドル.....	3-11	ヒューズの交換.....	6-13		
サイドスタンド.....	3-12				

JAU27280

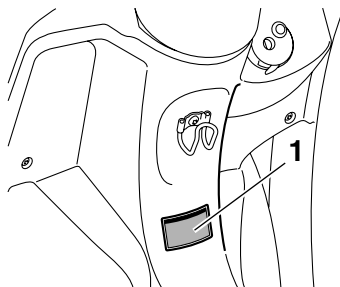
JAUT2991

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身のために 安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

警告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

5SU-F118K-00

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。
ヘルメットはPSCまたはSG、JISマークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。
- グローブを必ず着用してください。グローブは、摩擦に強い皮製のものが適しています。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は以下のことを確認して選び、着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時には身体を保護します。
 - 保護性の高い服で明るく目立つ色のもの

安全運転のために

1

- 動きやすく、体の露出が少ない長袖・長ズボン



- 以下のような服装は運転操作のじゃまになります。また、回転部分に巻き込まれたり高熱になる部分に接触したりして、思わぬ事故の原因にもなりますので、着用しないでください。

- ズボンのすそや袖口の広い服
- 衣服の飾り物や紐など、長すぎる装飾がある服

- ロングスカートやロングマフラーなどの体に密着しない服



- 靴はかかとが低く、運転操作がしやすいものを着用してください。また、くるぶしまで覆われていて足にピッタリしたものを選んでください。

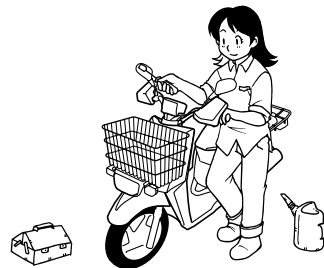


警告
ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が

高くなります。

運転者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う



事故や故障を防ぐため、法令に準じた日常点検を運転する前に行ってください。また、法令に準じた1年、2年ごとに行う定期点検も必ず実施してください。

車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあり危険です。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音が生じたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面にオイルなどが漏れた跡があるとき。

JWA11590

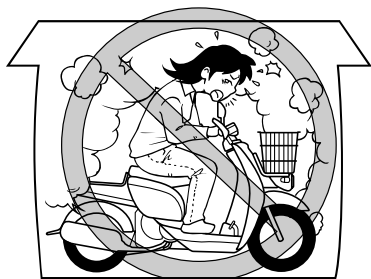
- 燃料、冷却水のにじみまたは漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



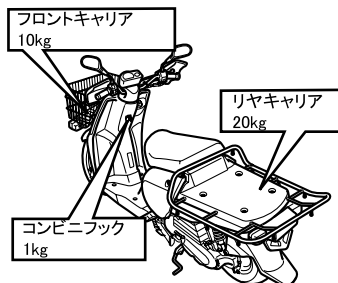
風通しの悪い場所でエンジンを始動しない



排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分

が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。

荷物はしっかり固定する



- 上記以外の場所には荷物を積まないでください。
- 最大積載量は、合計で 30kg です。
- 荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。
- 荷物を積みすぎると、ハンドルが振られたりして危険ですので、積みすぎないように注意してください。
- フロントバスケット（オプション）から荷物が出ないように注意してください。ハンドル操作の妨げとなったり、方向指示燈の配

光に支障をきたすことがあります。

- ハンドルの近くには、荷物など、物を置かないでください。ハンドルの近くに物を置くと、ハンドル操作を妨げる場合があります。
- ヘッドライトの前を荷物などでさえぎらないようにしてください。ライトの熱によりヘッドライトのレンズが変色、溶損したり、荷物にまでその不具合がおよぶこともあります。
- マフラー、エンジンなどの熱くなるところへ荷物などの物が触れないようにしてください。

両手はハンドル、両足はフットレストボード



運転するときには、両手でハンドルを握り、両足をフットレストボードにのせます。

安全運転のために

押して移動するときはエンジンを止める

乗車定員は 1 名

急激なハンドル操作や片手運転はしない



車から降りて押して移動するときはエンジンを止めてください。

やむをえずエンジンをかけたまま移動するときはスロットルグリップを不用意に回さないようにするため必ず右手でスタンディングハンドルを持って行ってください。

スロットルグリップを持って行くとおもな事故の原因となります。

運転者以外に人を乗せることは道路交通法によって禁じられています。

法定最高速度は 30km/h

車の速度が法定最高速度（30km/h）以上になると、スピードメーター部の速度警告灯が点滅し、運転者に注意をうながします。

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

誤った方法でエンジンを停止しない

誤った取り扱いをすると、マフラーの中の触媒装置が異常に高温になり、損傷するおそれがあります。次のような操作はしないでください。

- 走行中にメインスイッチでエンジンを停止する。
- 空ぶかし直後にエンジンを停止する。

自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。

JCA15220

JAUT3071

駐車

注意

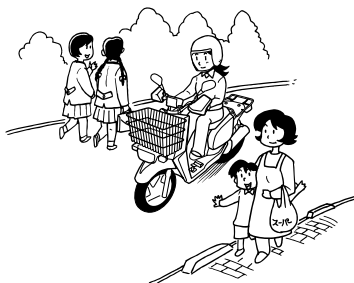
部品交換が必要な場合は正規の規格のものを
使用するよう、販売店へ依頼してください。
規格が異なった部品を使用すると、故障など
の原因となります。

自賠責保険に必ず加入

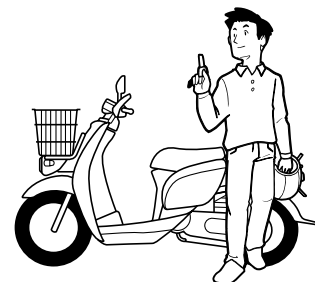
自賠責保険（共済）に加入することは法令で
定められています。万一の事態に備えて必ず
加入してください。

また、保険の期限切れにも注意してください。

歩行者と他の車のために 他の人への思いやり



- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。
歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。



- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーシャッターを閉めて、キーをお持ちください。また、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。
- 平坦な場所に駐車してください。
やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- サイドスタンドを使用して駐車するときは、車が停止してからハンドルを左に切ってください。

JWA12240

警告

- エンジン回転中および停止後、しばらくの

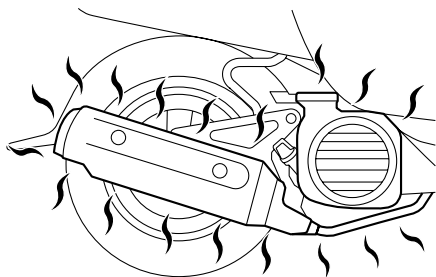
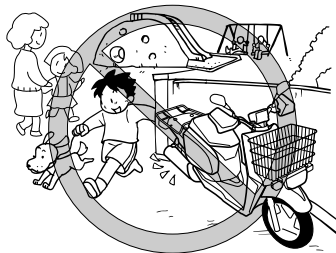
安全運転のために

1

間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。

また、物などが直接触れないようにしてください。

- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。
- マフラーの中の触媒装置は高温になります。枯れ草や紙、オイル、木材など、燃えやすいものがある場所には駐車しないでください。

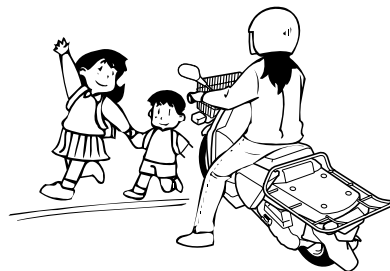


昼間はヘッドライトを下向きに

この車両は自動昼間点灯仕様です。エンジンがかかっている間は点灯しつづけます。他の車や歩行者へ注意をうながし、自分の存在を知らせるためです。対向車がまぶしくないように、ライトは下向きを使ってください。

環境・住民の方との調和のために 住民の方への思いやり

JAU27670



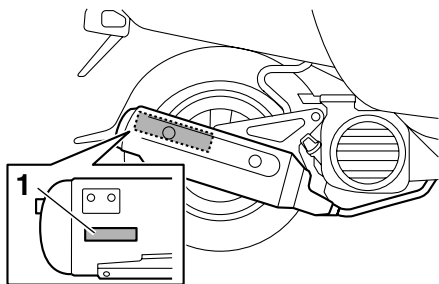
自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。

違法改造はしない

- 違法改造は法律により禁止されています。改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。また、改造すると車の保証が受けられません。
- この車は、排出ガス規制適合車です。マフラーには排出ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。他のマフラーをこの車に

取り付けると、排出ガス規制に適合しなくなる可能性があります。マフラーを交換する場合は、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

なお、ヤマハ純正部品のマフラーには "YAMAHA" マークが刻印されています。



1. "YAMAHA" マーク

環境への配慮

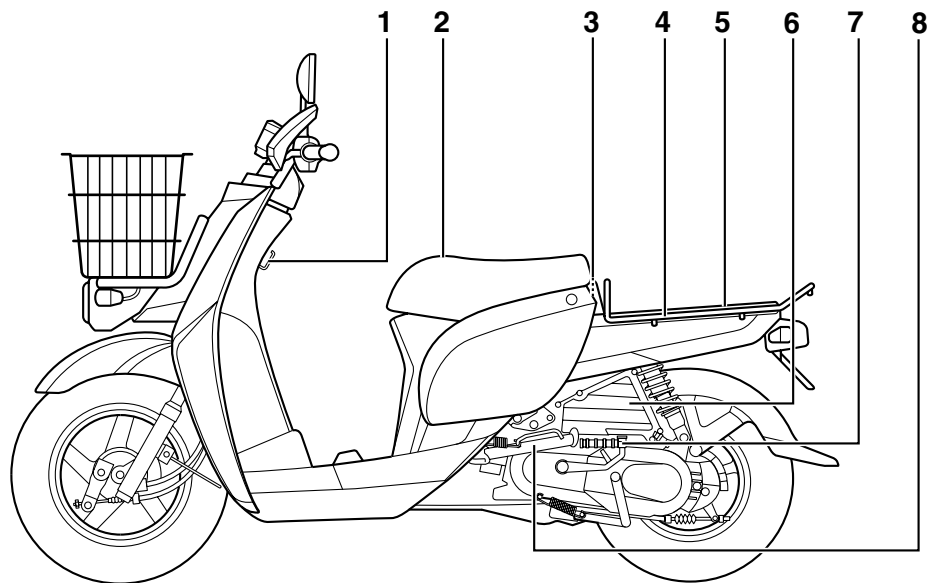
廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の名称

JAU10410

左側面

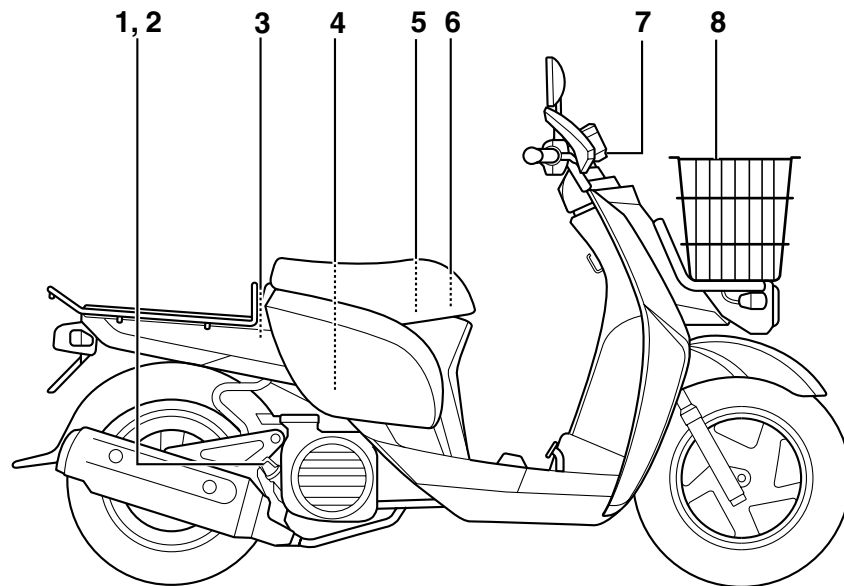
2



1. コンビニフック (P3-10)
2. シート (P3-8)
3. バッテリー (P6-11)
4. スタンディングハンドル (P3-11)
5. リヤキャリア (P3-10)
6. エアクリナー (P6-6)

7. キックスターター (P5-2)
8. サイドスタンド (P3-12)

右側面



1. オイルレベルゲージ (P6-3)
2. オイル注入口 (P6-3)
3. ヒューズ (P6-13)
4. リカバリータンク (P6-5)
5. フューエルタンクキャップ (P3-7)
6. ヘルメットホルダー (P3-9)

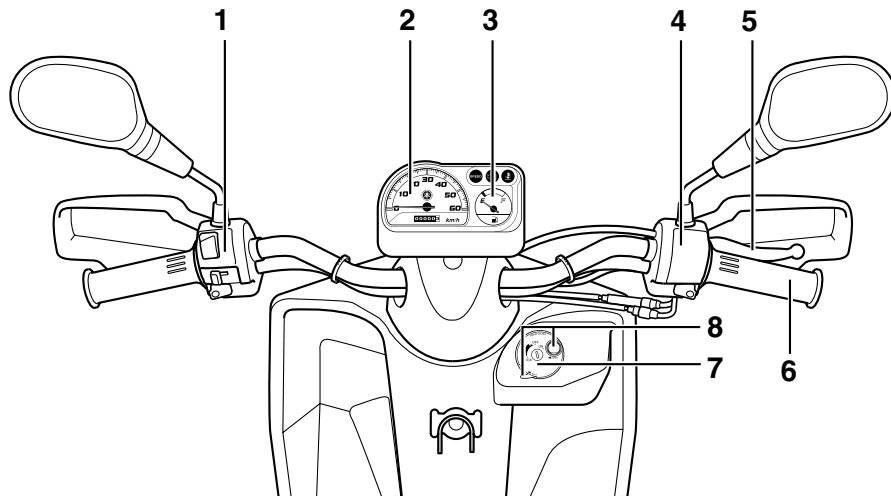
7. 手元灯
8. フロントバスケット (P3-9)

各部の名称

JAU10430

運転装置と計器類

2

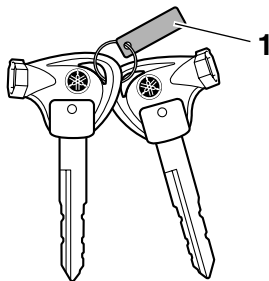


1. ハンドルスイッチ (左) (P3-5)
2. スピードメーター (P3-4)
3. 燃料計 (P3-4)
4. ハンドルスイッチ (右) (P3-5)
5. フロントブレーキレバー (P3-6)
6. スロットルグリップ (P5-3)

7. メインスイッチ (P3-1)
8. キーシャッター (P3-3)

キーの取り扱い

- キーは車の操作や保管をするときなどに使用する大切なものです。キーを紛失しないように、充分に注意してください。
- キーは2本付属しています。1本は予備として大切に保管してください。
- キーを紛失または破損したときのため、キーリングに掛かっているタグに打刻されたキー番号を9-3ページのキー番号記入欄に記入しておいてください。詳しくは販売店にご相談ください。



1. タグ

JCA12501

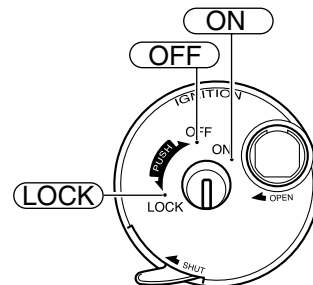
注意

金属製のキーホルダーは使用しないでください。また、リングなどに複数のキーをつないで使用しないでください。走行中にキーホ

ルダーや他のキーがカバーなどの部品に当たり、傷付きの原因となる場合があります。キーホルダーは、布製または皮製のものをお勧めします。

メインスイッチ

メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。



JWA11610

警告

走行中にメインスイッチを OFF の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

JCA11971

注意

エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドル状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。

各部の取り扱いと操作

盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。

JAUT3790

ON

- エンジンの始動ができます。
- キーは抜けません。
- 手元灯、テールランプ、メーター灯が点灯します。
- エンジンを始動させると、ヘッドライトが点灯します。

要 点

メインスイッチを ON にしたとき、2～3 秒間フューエルポンプ作動音がすることがあります。

JAU46010

OFF

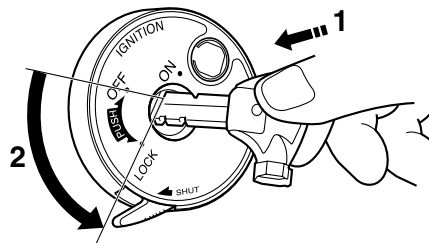
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

JAU10683

LOCK

ハンドルがロックされ、全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

ハンドルロックのしかた



1. 押す
2. 回す

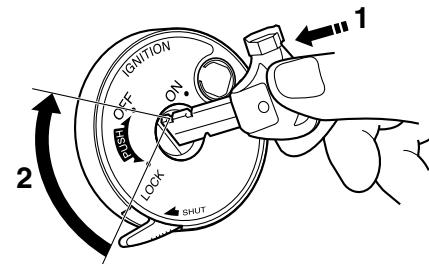
1. ハンドルを左へいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。

要 点

ロックしにくいときは、ハンドルを軽く左右に動かしながらキーを回します。

3. キーを抜きます。

ハンドルロックの解除のしかた



1. 押す
2. 回す

LOCK の位置でキーを押しこみ、そのまま OFF まで回します。

JWA11450

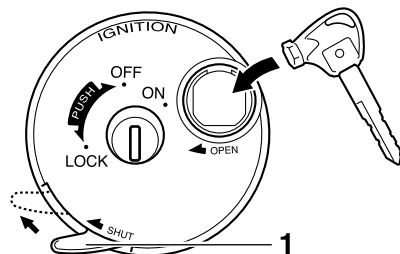
⚠ 警告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停止中に操作してください。

JAUT3010

キーシャッター

メインスイッチのキー孔をガードします。
キーシャッターの開閉は、キーとキーシャッターレバーを使って行います。



1. キーシャッターレバー

キーシャッターを閉じるとき

キーシャッターレバーを押すと、キーシャッターが閉まります。

キーシャッターを開けるとき

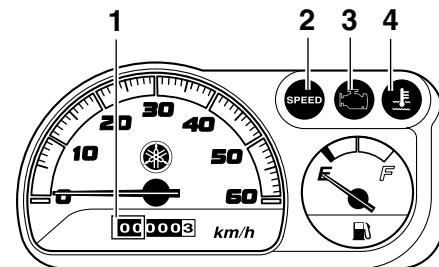
キーのマスコット部にある突起部分をメインスイッチにあるくぼみに差し込み、右に回すとキーシャッターが開きます。

要 点

キーのマスコット部にある突起部分には溝があります。突起部分をくぼみに差し込むときは、溝に合わせて差し込んでください。

JAUI11006

警告灯と表示灯



1. エンジンオイル交換インジケーター
2. 速度警告灯
3. エンジン警告灯
4. 水温警告灯

JAUT2790

エンジンオイル交換インジケーター

エンジンオイルの交換時期を示します。
オドメーターの5桁目の文字（× 1000km を表示する文字）の色と、6桁目の文字（× 10000km を表示する文字）の色が揃ったときが交換時期の目安です。

要 点

- 初回のエンジンオイル交換は、1000km 走行時に行ってください。
- 2回目以降のエンジンオイル交換は、3000km 走行毎に行ってください。

各部の取り扱いと操作

水温警告灯 "🔥"

エンジン冷却水が規定温度以上になると点灯します。

要 点

- 警告灯の球切れや回路点検のため、メインスイッチを ON にするとしばらく (2 ~ 3 秒間) 点灯します。
点灯しないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- 警告灯が消灯した直後に、メインスイッチを OFF → ON にしても点灯しないときがあります。これは故障ではありません。

JAJT2420

JCAT1090

注 意

- 万一、走行中に水温警告灯が点灯したら、エンジンを止めてリカバリータンクの水量を点検してください。
- 長時間のアイドリングにより、水温警告灯が点灯することがあります。このときは、走行するか、エンジンを止めて冷やしてください。

エンジン警告灯 "🔧"

エンジンの電気回路に異常が発生したとき、警告灯が点灯するか、点滅します。ヤマハ販

JAJU11484

売店で点検を受けてください。

要 点

- この警告灯は、キーを ON にしたときに約 2 秒間点灯し、その後消灯します。
- キーを ON にしたときに警告灯が点灯しない場合や、点灯したままになっている場合は、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

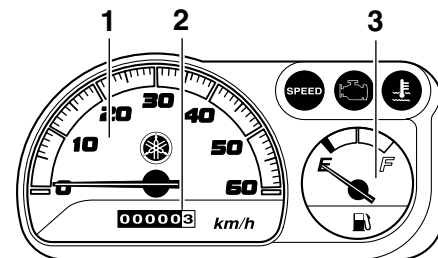
速度警告灯 "SPEED"

車の速度が 30km/h を超えると点滅し、運転者に注意をうながします。

JAU38070

スピードメーターユニット

JAU28120



1. スピードメーター
2. オドメーター
3. 燃料計

スピードメーターユニットにはスピードメーター、オドメーターと燃料計が装備されています。スピードメーターは車の速度を示します。オドメーターは走行した総距離を示します。燃料計は、フューエルタンク内の燃料の量を示します。指針が "E" 近づいたら、早めに給油してください。

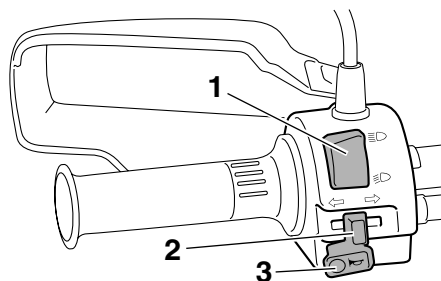
要 点

- 燃料計はメインスイッチが ON のときに作動します。
- 残量の確認は、平坦な場所で車を垂直にし、メインスイッチを ON にして行ってください。

各部の取り扱いと操作

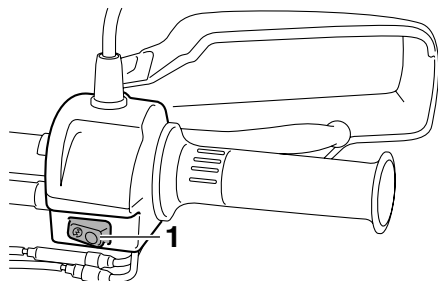
ハンドルスイッチ

<左>



1. ヘッドライト上下切り替えスイッチ "≡D/≡D"
2. 方向指示器スイッチ "←/→"
3. ホーンスイッチ "📢"

<右>



1. スタータースイッチ "🔋"

JAU12348

ヘッドライト上下切り替えスイッチ

"≡D/≡D"

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

≡D (上向き)：遠くを照らします。

≡D (下向き)：近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き ≡D にしてください。

JAU12400

しておくと、他のかたの迷惑になります。

JCA11981

注 意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。正規のワット数以外のものを使用すると、正常に作動しません。

JAU12500

ホーンスイッチ "📢"

スイッチを押すとホーンが鳴ります。

要 点

必要なときにのみ使用してください。

JAU35971

方向指示器スイッチ "←/→"

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

→：右側の方向指示灯が点滅します。

←：左側の方向指示灯が点滅します。

要 点

方向指示器を使用すると "カチカチ" 音がします。

JWA11640

⚠ 警 告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままに

3

JAUT3340

スタータースイッチ "🔋"

エンジンを始動するスイッチです。

始動するときはメインスイッチを ON にし、リヤブレーキペダルを踏んでスタータースイッチを押します。

JCA11881

注 意

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1 ページの始動手順を参照してください。

各部の取り扱いと操作

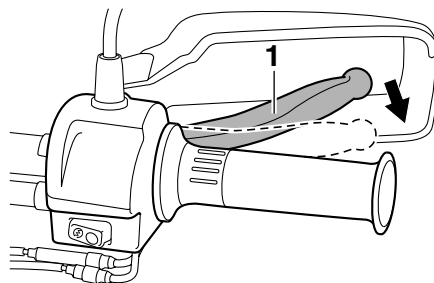
要 点

この車には、傾斜角センサーが装備されています。万一、転倒などで車が倒れた後にエンジンを始動させるときは、キーを一旦 OFF にしてから ON にし、始動してください。

JAU12900

JAU28211

フロントブレーキレバー



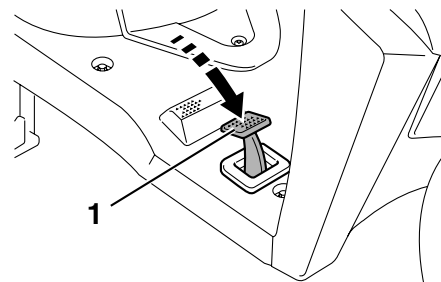
1. フロントブレーキレバー

フロントブレーキレバーは、ハンドルの右グリップ部に取り付けられています。フロントブレーキをかけるには、このレバーをハンドルのグリップに向けて握ります。

リヤブレーキペダル

リヤブレーキペダルは、フットボードの右前方にあります。

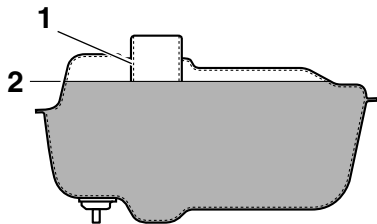
リヤブレーキをかけるには、このペダルを踏み込みます。



1. リヤブレーキペダル

フューエルタンクキャップ

JAJT3150



- 1. フィラーチューブ
- 2. 給油限度

JWA12171

警告

給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります、ヤケドするおそれがあります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合が

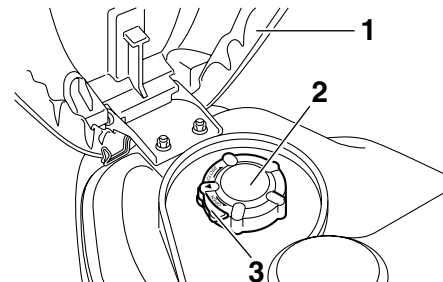
あります。

- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- セルフサービスのガソリンスタンドで給油するときは、ガソリンの吹きこぼれがないよう、慎重に給油してください。
- 給油限度（フィラーチューブ下端まで）を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあり危険です。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。

フューエルタンクキャップの取り外しかた

1. シートを開けます。(3-8 ページ参照)

2. ロック解除ボタンを押したまま反時計方向に回して、フューエルタンクキャップを取り外します。



- 1. シート
- 2. フューエルタンクキャップ
- 3. ロック解除ボタン

フューエルタンクキャップの取り付けかた

1. フューエルタンクキャップをタンクの開け口に挿入し、ロックされるまで時計方向に回します。

要 点

フューエルタンクキャップが正しくロックされると、ロック解除ボタンが飛び出します。

2. シートを閉めます。

各部の取り扱いと操作

燃料

指定燃料

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 7.5 L

JAU31460

JAU28311

JCA12511

注 意

- 必ず指定燃料を使用してください。高濃度アルコール含有燃料や軽油、粗悪ガソリンなど、指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

キックスター

スタースイッチを押してもエンジンが始動しない場合、キックスターで始動してください。キックスターでエンジンを始動するには、メインスタンドを立ててサイドスタンドを出し、キックスターレバーを出して力強く下にキックします。

要 点

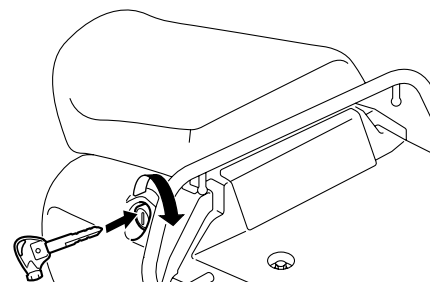
キックスターレバーは自動的に戻りません。エンジン始動後、必ず手か足で戻してください。

JAUT3160

シートの開閉

シートの開けかた

1. メインスタンドを立てます。
2. キーをシートロックに差し込み、時計方向に回してロックを解除します。



3. シート後部を持ち上げて開きます。

シートの閉めかた

シートを手で下ろし、シート後部を押さえてロックします。

要 点

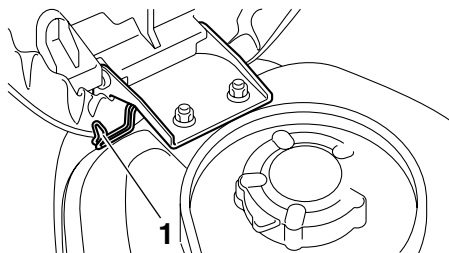
- 走行前に、必ずシートが確実にロックされているか確認してください。
- キーをシートの下に置いたまま閉じると、ロックされてキーが取り出せなくなります。注意してください。

JAUT3170

JAU14301

ヘルメットホルダー

シートを開けるとヘルメットホルダーがあります。ヘルメットのおごひもの金具部分を掛け、シートをロックします。



1. ヘルメットホルダー

JWA11650

⚠ 警告

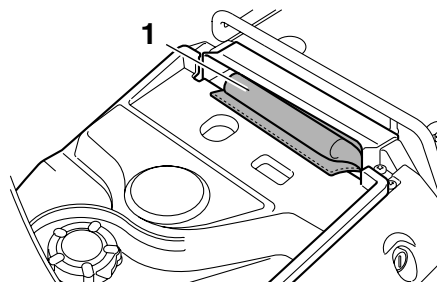
ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

JAUT3180

書類入れ

シートを開けると、リヤキャリア前方に書類入れがあります。

自賠責保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、折り曲げてここに保管してください。



1. 書類入れ

JAU38500

フロントバスケット

フロントバスケットから荷物が出ないように注意してください。



1. フロントバスケット

JWA14240

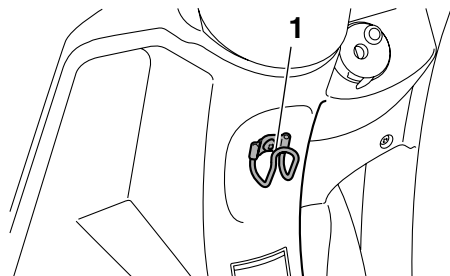
⚠ 警告

- フロントバスケットに積める荷物は 10kg までです。
- 荷物を積みすぎると、荷くずれを起こしたりハンドルを取られたりして危険です。

各部の取り扱いと操作

コンビニフック

手さげ袋などをこのフックに掛けます。



1. コンビニフック

JWA11680



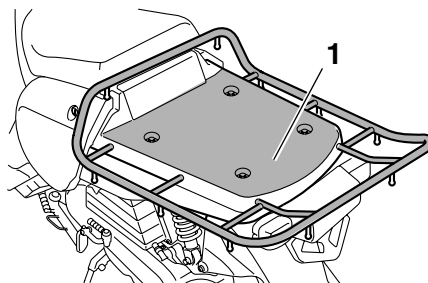
警告

コンビニフックに掛けられる荷物は、1kg
までです。

JAU28560

リヤキャリア

リヤキャリアに荷物を積むときは、ひもなど
でしっかり固定してください。



1. リヤキャリア

JWA11690



警告

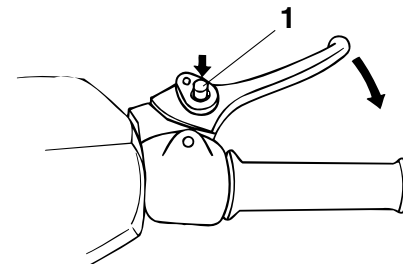
リヤキャリアに積める荷物は、20kg まで
です。

JAU15112

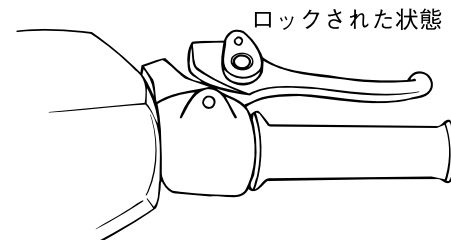
パーキングロック

パーキングロックのかけかた

ロックボタンを押しながらブレーキレバーを
握り、ロックボタンが下がり切ったところで
ブレーキレバーを離します。



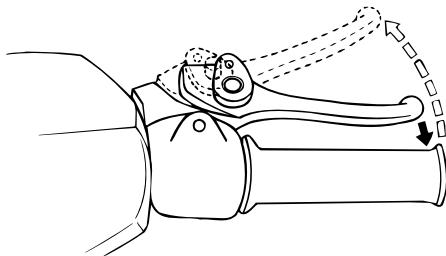
1. ロックボタン



JAU29851

解除のしかた

ブレーキレバーをさらに握るとロックボタンが戻り、パーキングロックを解除します。



JWA11670

警告

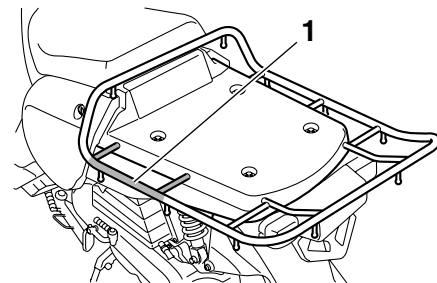
- パーキングロックはサイドスタンドを出してから操作してください。
- 車から離れるときは、パーキングロックが確実にロックしてあるかを確認してください。
- 走行中はロックボタンを操作しないでください。
- 定期的に、フロントブレーキレバーの遊び量の点検・調整を行ってください。遊びが多すぎるとパーキングロックを使用しても、フロントブレーキが確実にロックされないことがあります。

要 点

パーキングロック中のブレーキランプは点灯しません。

スタンディングハンドル

メインスタンドを立てたり戻したりするときに、右手で持ちます。



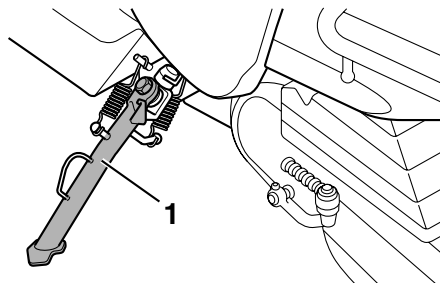
1. スタンディングハンドル

各部の取り扱いと操作

JAU36001

サイドスタンド

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。



1. サイドスタンド

JWA12590

警告

- サイドスタンドを出したまま走行すると、スタンドが地面に接触して運転操作に支障をきたすことがあり、たいへん危険です。
- この車には発進時のサイドスタンドの格納忘れを防止するサイドスタンドスイッチが装備されています。発進時には必ず格納してください。
- 走行中にサイドスタンドを操作するとエンジン回転数が急激に下がり、思わぬ事故の原因となります。走行中はサイドスタンド

を操作しないでください。

要 点

- この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。サイドスタンド使用中は、安全のため、スロットルグリップを操作してもエンジン回転数は一定以上になりません。
- サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、取付部に注油してください。

JAU15596

JAU30121

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、道路運送車両法で日常点検を行うことが義務づけられています。

運転する前に必ず実施してください。

JWA12031

⚠ 警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適切であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	● 冷却水の量が適切であること。(※) ● エンジンオイルの量が適切であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適切であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11732

⚠ 警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

この車には、メインスイッチが ON のときに車体が転倒した状態になると、エンジンを停止させる機構が装備されています。この機構が働くと、車体を起こしてもエンジン停止の制御が継続されるため、スターターモーターは回転しても、エンジンを始動することができません。そのまま始動操作を続けると、バッテリー上がりの原因になることがありますので、このような状態になった場合はメインスイッチを一旦 OFF にして、再度 ON にするリセット操作をしてください。

エンジン始動

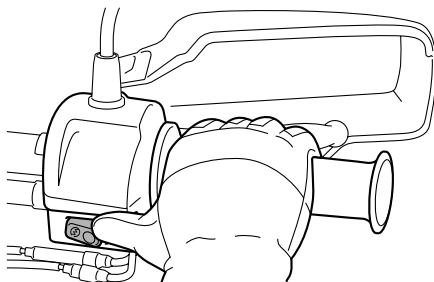
エンジンをかける前に

- エンジンを始動するときは、風通しのよい屋外で行います。
- ガソリン、オイル量が充分あることを確認します。
- メインスタンドを立て、必ず車の左側から操作します。

エンジンのかけかた

1. メインスイッチを ON にします。
2. リヤブレーキペダルをしっかりと踏みます。
3. スロットルグリップを回さずに、スタータースイッチを押します。

エンジンが始動したら、スタータースイッチから指をはなしてください。



要 点

- スタータースイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒ぐらい休ませてから押しなおしてください。
- 長時間ご使用にならなかった場合や、ガス欠をしてガソリンを補給した後などにエンジンが始動しにくいことがあります。このようなときは、スロットルグリップを回さずにスタータースイッチをいつもより長めに押してください。
- サイドスタンド使用中は、安全のため、スロットルグリップを操作してもエンジン回転は一定以上になりません。

JCA16660

注 意

- エンジンを長持ちさせるため、エンジンが冷えている間の急加速や、無用な空ふかしは避けてください。
- 長時間のアイドリングはガソリンのムダ使いになるだけでなく、環境への悪影響にもなりますので、やめてください。
- 通常のアイドリング回転数を必要以上に高めた状態（スロットルグリップを開けて固定した状態など）で、長時間放置しないでください。温度上昇により、エンジンマ

たは車両が損傷する場合があります。

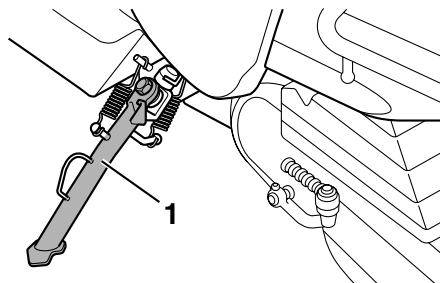
キックスターターを使用するとき

スタータースイッチでエンジンが始動しないときは、キックスターターを使用してください。

要 点

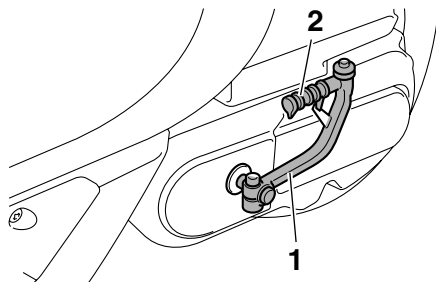
- キックスターターを使用するときは、必ずメインスタンドを立てて行ってください。
- バッテリー電圧が8Vに満たない、またはバッテリーが取り付けられていない場合は、車両のエンジンは始動しません。(キックスターターでも始動しません)

1. メインスイッチをONにします。
2. サイドスタンドを出します。



1. サイドスタンド

3. レバーを出します。



1. キックスターター
2. レバー

4. 右手でフロントブレーキレバーを握り、左手でハンドルを握ります。
5. 右足でキックスターターを強くキックします。
6. レバーを元に戻します。

要 点

キックスターターのレバーは自動的にには戻りません。エンジン始動後、必ず手か足で戻してください。

7. サイドスタンドを格納します。

発進

警告

飛び出し防止のため、走り出すまではエンジンの回転をむやみに上げないでください。

要 点

サイドスタンド使用中は、安全のため、スロットルグリップを操作してもエンジン回転数は一定以上になりません。

1. 左手でハンドルを握り、右手でスタンディングハンドルを持ちます。
2. 車を前に押し出してメインスタンドを戻します。



警告

メインスタンドを立てたり戻したりするとき

運転操作

は、スロットルグリップを握らないでください。スロットルグリップが回り、車が走り出すことがあります。

3. 車の左側から右足をフットボードに乗せ、リヤブレーキペダルを踏みます。
4. シートに腰をおろします。
このとき、車が倒れないように左足で支えてください。
5. バックミラーを調整します。
6. 方向指示器スイッチを右側に入れて発進の合図をします。
7. 周りの安全を確認し、スロットルグリップをゆっくりと回して発進します。

JWA12280

警告

スロットルグリップを急激に手前に回すと、急発進して危険です。

8. 方向指示器を消灯します。

JWA12590

警告

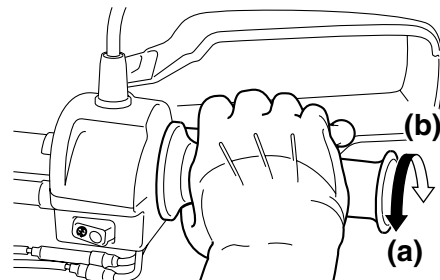
- サイドスタンドを出したまま走行すると、スタンドが地面に接触して運転操作に支障をきたすことがあり、たいへん危険です。
- この車には発進時のサイドスタンドの格納忘れを防止するサイドスタンドスイッチが装備されています。発進時には必ず格納し

てください。

- 走行中にサイドスタンドを操作するとエンジン回転数が急激に下がり、思わぬ事故の原因となります。走行中はサイドスタンドを操作しないでください。

加速と減速

速度の調整は、スロットルを開けたり、閉めたりして行います。速度を上げるには、スロットルグリップを (a) 方向に回します。速度を落とすには、スロットルグリップを (b) 方向に回します。



JCA12680

注意

上り坂で停止するときには、ブレーキを使用してください。スロットルグリップの操作で車を保持すると、クラッチなどが発熱して故障の原因となります。

JAU33172

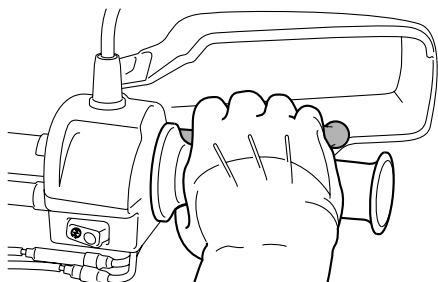
JWA11572

JAU31470

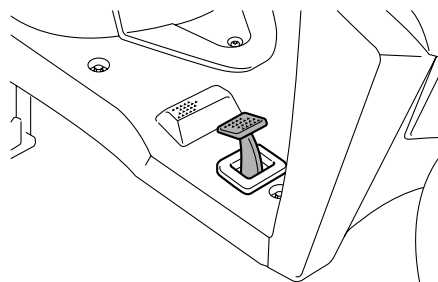
ブレーキ

1. スロットルを完全に閉じます。
2. フロントブレーキとリヤブレーキを同時に、徐々にかけます。

<フロントブレーキ>



<リヤブレーキ>



警告

- 急なブレーキ操作は避けてください（特にどちらか一方に傾いている時）。横すべりや転倒の原因となります。
- 踏切、路面電車のレール、道路建設現場の鉄製のプレート、マンホールのフタなどは、濡れているときは極端に滑りやすくなります。そのようなところでは減速し、注意して走行してください。
- 濡れた路面では、ブレーキが効きにくいことを留意してください。
- 下り坂でのブレーキ操作は非常に困難です。下り坂に差しかかる前までに充分減速してください。
- 連続したブレーキ操作は避けてください。ブレーキ部の温度が上昇し、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあります。

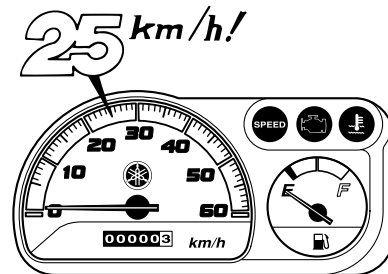
ならし運転

ならし運転のしかた

車を長持ちさせるために、ならし運転を行ってください。

乗りはじめてから約 1 か月間（または 100km 走行まで）は、25km/h 以下のスピードで走ってください。

また、走行するときは、不要な空ぶかしや急加速、急減速はしないでください。



運転操作

JAU17213

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメ
インスイッチから抜きます。

JWA11581

警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通
行する人などが触れない場所に駐車してく
ださい。
- 草や可燃物などの火災の危険がある場所
には、決して駐車しないでください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車
しないでください。車が転倒することがあ
ります。

点検整備の実施

JAU29837

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、運転する前に実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、1 年点検と 2 年点検の 2 種類があります。定期点検項目と基本的な点検内容は別冊の「メンテナンスノート」に記載してあります。ここでは、この車独自の内容を補足説明しています。実際の点検作業にあたっては、別冊「メンテナンスノート」とあわせてご使用ください。

JWA12054



警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせて範囲内で点検・整備を行ってください。

難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。

- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
 - 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
 - エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
 - 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動は風通しのよい屋外で行ってください。
 - 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
 - 異常が認められたときは、乗車前にご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

JWA15460



警告

走行直後はブレーキ関係の部品に直接触れないでください。ブレーキディスク、キャリアー、ドラム、ライニングなどは使用すると

高温になり、ヤケドするおそれがあります。点検整備はブレーキ関係の部品が充分に冷えてから行ってください。

要 点

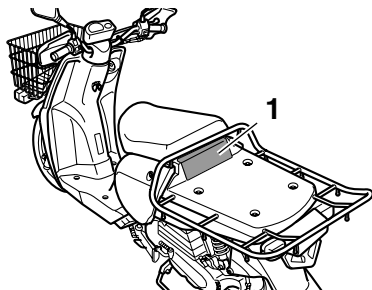
- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、サービスツールの有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

点検整備

JAU18751

カバーの取り外し、取り付け

図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。



1. カバー A



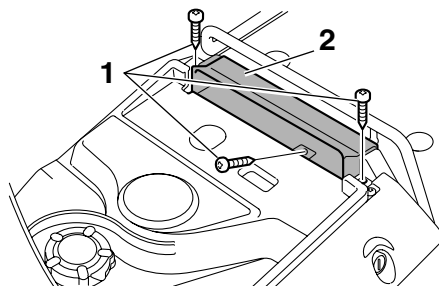
1. カバー B

JAUT3200

カバー A

カバーの取り外しかた

1. シートを開けます。(3-8 ページ参照)
2. スクリューを外し、カバーを取り外します。



1. スクリュー
2. カバー A

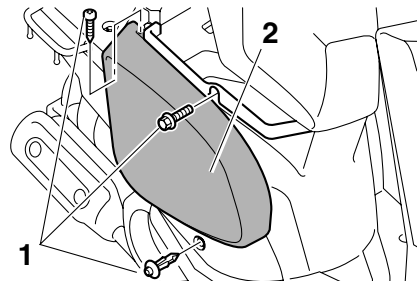
カバーの取り付けかた

1. カバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
2. シートを閉めます。

カバー B

カバーの取り外しかた

1. シートを開けます。(3-8 ページ参照)
2. スクリューを外し、カバーを取り外します。



1. スクリュー
2. カバー B

カバーの取り付けかた

1. カバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
2. シートを閉めます。

エンジンオイル

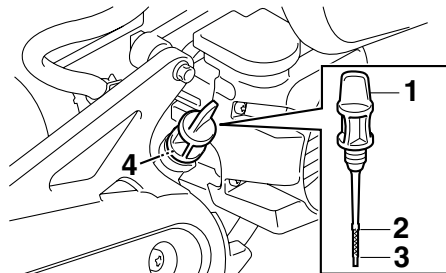
エンジンオイル量の点検

- 平坦な場所でエンジンを 2 ～ 3 分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンが十分に暖まっていれば、アイドリング運転は不要です。

- エンジンを止めてメインスタンドを立て（車を垂直にする）、2 ～ 3 分後、オイルレベルゲージでオイル量を点検します。



- オイルレベルゲージ
- フルレベル
- ロアレベル
- オイル注入口

JAU2371

要 点

オイルレベルゲージはねじ込まないで点検します。

- オイル量がロアレベル以下のときは、オイル注入口から補給します。

<推奨エンジンオイル>

	SAE	JASO
ヤマハ純正オイル ヤマールブ ミニスクーター	10W-40	MB

JAU30612

エンジンオイルの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000km 時

2 回目以降：

3000km 走行毎または 1 年毎

定期交換時オイル量：

0.8 L

定期交換時期の前でも、エンジンオイルの汚れが著しいときやエンジンオイルが薄茶色に濁っているときは、早めにエンジンオイルを交換してください。汚れや濁りの程度については、ヤマハ販売店にご相談ください。

警告

- 走行後など、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12260

注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

ファイナルギヤオイルの交換時期

初回：

1 か月点検時または 1000km 走行時

2 回目以降：

10000km 走行毎

定期交換時オイル量：

0.1 L

推奨オイル：

ヤマルーブ ギヤオイル

ファイナルギヤオイルの交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

エンジンのかかり具合、異音の点検

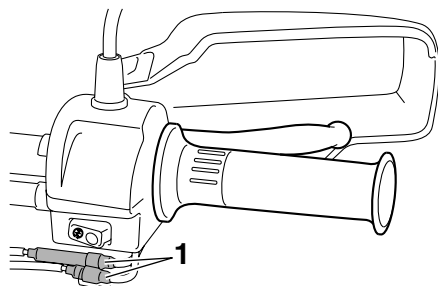
エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がしないかを点検します。

低速、加速の状態の点検

低速、加速の状態の点検前に以下の点検を行ってください。

- エンジンを停止した状態でスロットルグリップをゆっくり回し、引っ掛かりがなくスムーズに作動することと、手を離れたときにスロットルグリップがスムーズに戻ることを点検してください。また、ハンドルを左右にいっぱいに切った状態でも同じ点検を行ってください。
- スロットルケーブルに劣化や損傷などがなければ点検してください。また、取り付けの状態も点検してください。
- スロットルケーブルには、ゴムカバーが取り付けられているものがあります。ゴムカバーが確実に取り付けられていることを確認し、洗車時にはゴムカバーに直接水をかけないようにしてください。ゴムカバーの汚れがひどい場合には、水で濡らして固くしぼった布などでふき取ってください。



1. ゴムカバー

JWA15530

警告

ケーブル、ワイヤー類に異常があるときは、早めにヤマハ販売店にご相談ください。異常がある状態で使用続けると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

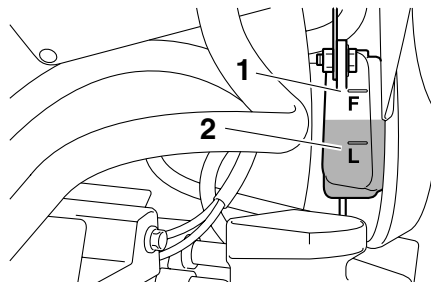
スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストップ（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

冷却水

冷却水量の点検

要 点

- 冷却水量の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。
- 冷却水量の点検は、平坦な場所で車を垂直にして行ってください。



1. フルレベル
2. ロアレベル

右サイドカバーの後方から、リカバリータンク内の冷却水量がフルレベルとロアレベルの範囲内にあるかを点検します。

冷却水がロアレベル以下のときは、以下を参照して補充してください。

JAU20070

JAUT3210

冷却水のつくりかた

ヤマハ純正ロングライフクーラントと水道水を1対1で混ぜ合わせます。

JAU30802

JWA11881

警告

クーラントには毒性がありますので、取り扱いには充分注意してください。

- 目に入ったとき水で十分に洗い流してから、医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類についたときすみやかに水洗いした後、セッケン水で洗ってください。
- 飲んだときすぐにおう吐させ、医師の治療を受けてください。

JCA12110

注意

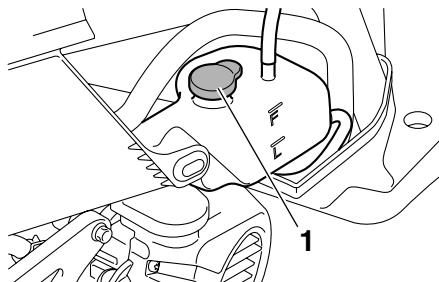
補充する水は水道水を使用し、井戸水や塩分の含まれた天然水は使用しないでください。

点検整備

JAUT3220

冷却水の補充

リカバリータンク内の冷却水量を点検し、液面がロアレベルより下にあるときは、冷却水をフルレベルとロアレベルの間まで補充します。



1. リカバリータンクキャップ

1. シートを開けます。(3-8 ページ参照)
2. カバー B を取り外します。(6-2 ページ参照)
3. リカバリータンクキャップを外し、冷却水をフルレベルとロアレベルの間まで補充します。
4. リカバリータンクキャップ、カバー B を取り付けます。
5. シートを閉めます。

JCA12120

注意

- フルレベル以上は入れないでください。
- 冷却水の交換は、ヤマハ販売店で行ってください。

要点

冷却水の点検は、エンジンが冷えた状態で行ってください。

JAUT2350

エアクリーナーエレメントの交換

エアクリーナーエレメントは定期的に点検し、汚れや破れなどがあるときは交換してください。ただし、ほこりの多い場所や湿気の多い場所を走行する機会が多い場合は、より短い期間で交換してください。

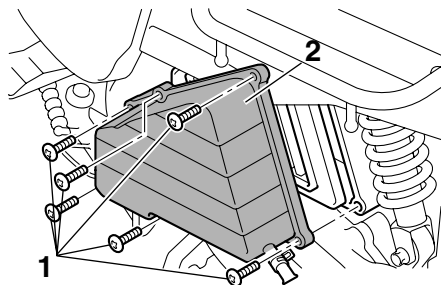
JCA11950

注意

- エアクリーナーエレメントがエアクリーナーケースに正しく装着されていることを確認してください。
- エアクリーナーエレメントを取り付けないままエンジンを始動しないでください。エンジンの故障の原因となります。

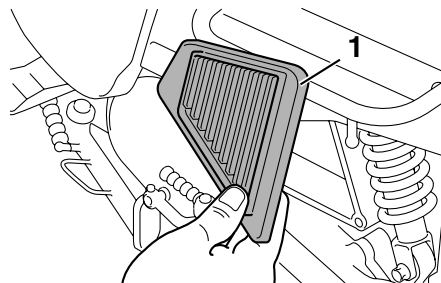
エアクリーナーエレメントの交換

1. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



1. スクリュー
2. エアクリーナーケースカバー

2. エアクリーナーエレメントを取り外します。

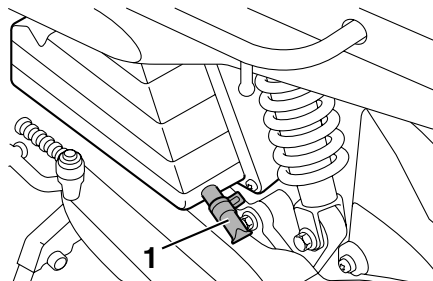


1. エアクリーナーエレメント
3. 新しいエアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。

4. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。

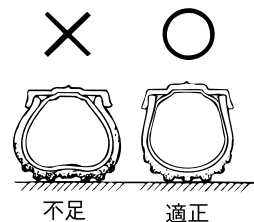
ブローバイガス還元装置のブリーザー dren ホースの清掃

1. ブリーザー dren ホースを点検し、汚れや水がたまっていないか確認します。



1. ブローバイガス還元装置のブリーザー dren ホース
2. 汚れや水があった場合は、ブリーザー dren ホースを取り外して清掃し、元に戻します。

タイヤ空気圧



タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。この車はチューブレスタイヤを装着してあります。

タイヤ空気圧

1 名乗車

前輪

150kPa (1.50kgf / cm²)

後輪

175kPa (1.75kgf / cm²)

要 点

- タイヤの空気圧は徐々に低下します。見た

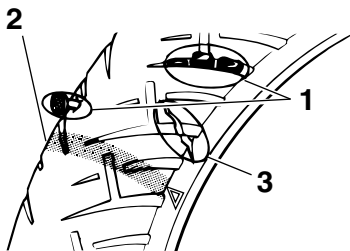
点検整備

目には不足していることが判りにくいタイヤもあり、少なくとも1か月に一度はタイヤゲージを使用して空気圧の点検を行ってください。

- 空気圧の確認は、タイヤが冷えているときに行ってください。走行後はタイヤが暖まっており、空気圧が高くなります。

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. 異物（釘、石など）
2. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
3. 亀裂、損傷

要 点

道路の縁石などにタイヤ側面を接触させたり、大きなくぼみや突起物を乗り越したときは、必ず点検してください。

JAU28700

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

JAU28742

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が0.8mmになるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性を確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に原付のタイヤは前輪、後輪とも溝の深さが1.6mm以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11912



警告

- **タイヤを交換するときは、必ず指定タイヤを使用してください。指定タイヤ以外のタ**

イヤを使用すると、操縦安定性に影響をおよぼすおそれがありますので、使用しないでください。

- 過度にすり減ったタイヤの使用や不適正な空気圧での運転は、転倒事故などを起こす原因となることがあります。取扱説明書に記載された空気圧を守り、過度にすり減ったタイヤは交換してください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ

前輪

90/90-12 44J

後輪

110/90-10 51J

指定タイヤ

前輪

DUNLOP/K378FA

後輪

DUNLOP/K378B

JAU31132

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

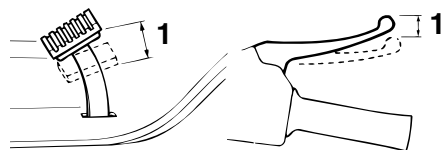
ブレーキの遊びの点検

<フロントブレーキ>

ブレーキレバーを軽く握り、抵抗を感じるまでのレバー先端部の遊びが 10 ～ 20mm の範囲にあるかを点検します。

<リヤブレーキ>

ブレーキペダルを軽く押し、抵抗を感じるまでの遊びが 10 ～ 15mm の範囲にあるかを点検します。



<リヤブレーキ>

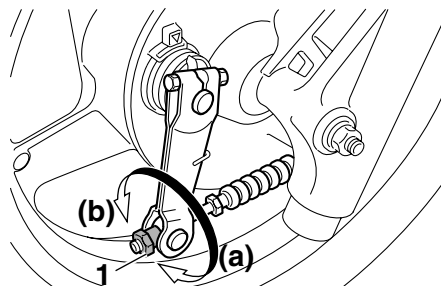
<フロントブレーキ>

1. 遊び

点検の結果調整が必要な場合は、アジャスターで調整します。

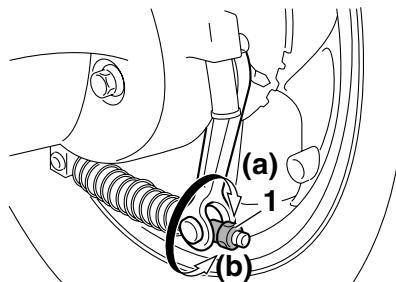
1. アジャスターを時計回り (a) に回すと、遊びが少なくなります。
2. アジャスターを時計回り反時計回り (b) に回すと、遊びが多くなります。

<フロントブレーキ>

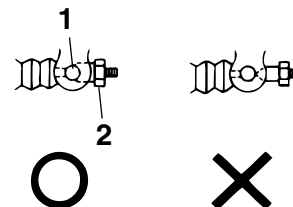


1. アジャスター

<リヤブレーキ>



1. アジャスター



1. ピン
2. アジャスター

要 点

アジャスターは、必ずピンとかみ合わせてください。

JWA11850

⚠ 警告

ブレーキ調整後は、必ずブレーキランプの点灯とタイミング、ブレーキの引きずりがないかを確認してください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、フロントブレーキ、リヤブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

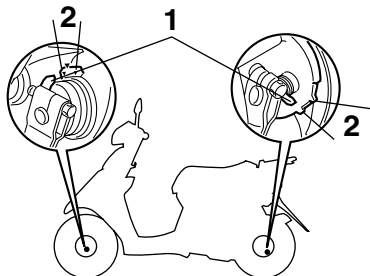
ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

警告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

ブレーキシューの摩耗点検

ブレーキレバーをいっぱいに握ったとき、またはブレーキペダルをいっぱいに踏んだとき、インジケーターが使用範囲から外れるとブレーキシューの使用限度です。ヤマハ販売店で交換・整備を受けてください。



1. インジケーター
2. 使用範囲

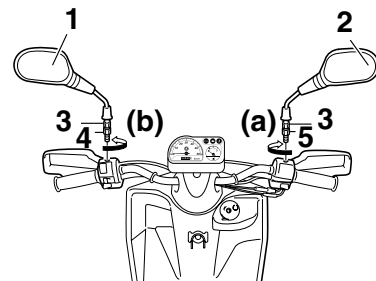
バックミラー

バックミラーの脱着のしかた

- 右バックミラーは左ネジです。右バックミラーを取り外すときは、右バックミラー取り付けボルトを時計回り (a) 方向に回します。
- 左バックミラーは右ネジです。左バックミラーを取り外すときは、左バックミラー取り付けボルトを反時計回り (b) 方向に回します。

注意

可倒部分締め付けナットは、ゆるめしないでください。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 可倒部分締め付けナット
4. 左バックミラー取り付けボルト
5. 右バックミラー取り付けボルト

- バックミラーの取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であるかを点検します。

異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU28620

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。

バッテリー液の補充、点検は不要です。

バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JWA11810

警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受ける

点検整備

ことがあります。

- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などについたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12141

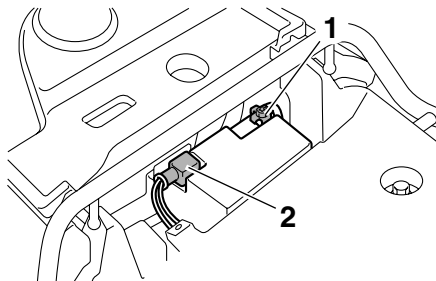
注意

- このバッテリーは密閉式の 12 V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間で使用にならないときは、3 か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

6

バッテリーの取り外し

1. メインスイッチを OFF にします。
2. カバー A を取り外します。(カバー A の取り外しは 6-2 ページ参照)



1. - リード線
2. + リード線
3. - (マイナス) 側リード線を外し、次に + (プラス) 側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。

バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

JCAT1081

注意

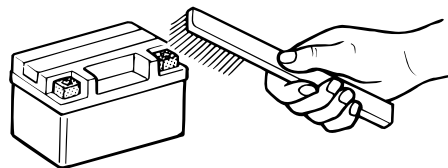
バッテリー交換後または充電後は、エンジンを始動する前にメインスイッチの ON/OFF を 3 回繰り返してください。このとき、OFF にしている時間は 3 回とも、3 秒以上として

ください。

JAU29410

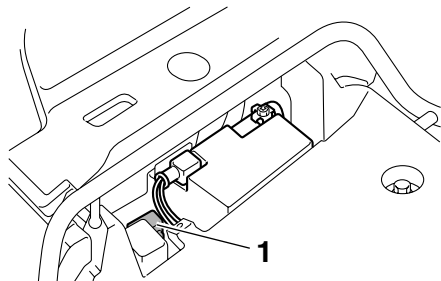
ターミナル部の清掃

バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



ヒューズの交換

ヒューズホルダーは、バッテリー左側にセットされています。

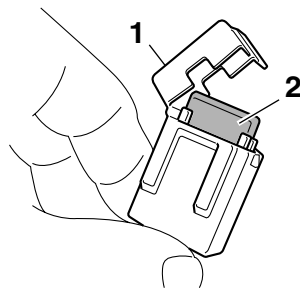


1. ヒューズホルダー

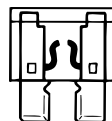
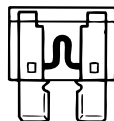
ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. ヒューズホルダーカバーを押さえながら、引いてカバーを開けます。
3. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。

JALT2950



1. ヒューズボックスカバー
2. ヒューズ



規定ヒューズ：
15A

JCAT1130

注意

- 交換するヒューズは、指定されている容量のヒューズを使用してください。指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過

熱や焼損の原因になります。

- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けしないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。
- ヒューズ交換後は、エンジンを始動する前にメインスイッチの ON/OFF を 3 回繰り返してください。このとき、OFF にしている時間は 3 回とも、3 秒以上としてください。
- 4. メインスイッチを ON にし、電気回路をオンにして装置が作動することを点検します。
- 5. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

灯火装置および方向指示灯の点検

エンジンを始動します。

- ヘッドライト、テールランプが点灯するかを点検します。

同時にヘッドライト上下切り替えスイッチを操作し、上向き、下向きに切り替わるかも点検します。

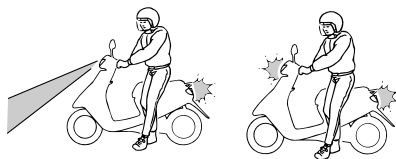
- フロントブレーキ、リヤブレーキを別々にかけ、ブレーキランプが点灯するかを点検します。

- 方向指示器スイッチを操作し、左および右の方向指示灯が、前後同時に“カチカチ”音を伴って点滅するかを点検します。

- レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

運行において異常が認められた箇所の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。



こんなときは

こんなときは、ヤマハ販売店にご相談される前に次のことを調べてください。

エンジンが始動しないときは？

次の項目を確認してください。

1. メインスイッチは ON になっていますか？
2. ガソリンはありますか？
燃料計にてガソリン量を確認してください。
燃料計の指針が“E”のときは、最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
3. リヤブレーキペダルを踏んでスタータースイッチを押しましたか？
4. スロットルグリップを回さずにスタータースイッチを押しましたか？

以上のことを確認してから、5-1 ページの「エンジンのかけかた」の方法でエンジンをかけなおしてください。

スターターモーターが回らないときは？

スタータースイッチを押してもスターターモーターが回らないときは、次の項目を確認してください。

JAUT3290

1. メインスイッチは ON になっていますか？
 2. リヤブレーキペダルを踏んでスタータースイッチを押しましたか？
- 以上のことを確認しても、スターターモーターが回らないときは・・・

- メインスイッチを ON にして、ホーンスイッチを押します。ホーンが鳴らないときは、ヒューズ切れが考えられます。6-13 ページを参照してヒューズを点検してください。
- ヒューズに異常がないときは、早めにヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ランプ類が点灯しないときは？

次の順序で点検してください。

1. メインスイッチが ON になっていますか？（ヘッドライトの場合はエンジンが始動していますか？）
 2. 各スイッチを作動させていますか？
 3. ホーンスイッチを押したときに、ホーンは鳴りますか？
- ホーンが鳴るときは、ランプ自体の球切れが考えられます。8-2 ページの規格に合わせて、同じものと交換してください。
 - ホーンが鳴らないときは、ヒューズが切れていることがあります。6-13 ページを参

照してヒューズを点検してください。

注意

電球は、指定されているワット数・規格のものを使用してください。指定以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

走行中にエンジンが止まったときは？

ガソリンはありますか？

燃料計でガソリン量を確認してください。燃料計の指針が“E”のときは、最寄りのガソリンスタンドで給油してください。
上記のことを確認してから、5-1 ページの「エンジンのかけかた」の方法でエンジンをかけなおしてください。

車のお手入れ

JAU35122

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。

すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

JCA13082

注意

お車によってはマット塗装（ツヤ消し塗装）が施されています。お車の手入れの前にヤマハ販売店で、どのようなアフターケア用品を使用したら良いか、ご相談することをおすすめします。また、マット塗装部分のお手入れをするときは、以下の点に注意してください。

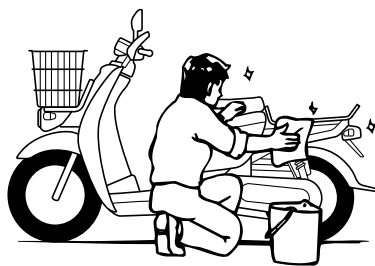
- 洗車などでブラシは使用しないでください。塗装を傷つけることがあります。
- ワックスがけはしないでください。ふき残しなどにより、外観が変化することがあります。
- コンパウンドは使用しないでください。マット塗装の表面が研磨されて、光沢がでることがあります。
- マット塗装部分の補修が必要な場合は、ヤマハ販売店にご相談ください。

洗車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して洗車した後、十分に水洗いします。洗車後は柔らかい布で水分をよくふきとります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。
- 車の塗装面保護のため、ワックスがけをしてください。（マット塗装部分を除く）

ワックス：
ユニコンカークリーム



JAU27955

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車時、ブレーキドラムに直接水をかけないでください。ドラム内に水が入ると、ブレーキの制動力が低下し、一時的にブレーキが効かなくなることがあります。特に寒冷地では充分注意してください。
- 洗車後、ブレーキの効きが悪くなる場合があります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。

JCA12213

注意

- エアクリーナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- ヘッドライト、メーターパネル、カバーなどのプラスチック部品にガソリンやブレーキ液、アルカリ性および強酸性のクリー

ナー、その他の溶剤などがかかると、ヒビ割れなどの原因になりますので注意してください。また、コンパウンドの入ったワックスは、表面を傷つけますので使用しないでください。

- ウィンドシールド、ヘッドライトレンズ、メーターレンズ、カウル、パネルなどのプラスチック部品やマフラーは、清掃のしかたを誤ると外観を損ねたり損傷したりします。まず、柔らかくて清潔な布やスポンジを使用し、水洗いしてください。もし、汚れが十分に落ちないときは、少量の中性洗剤を水で薄めて清掃してください。中性洗剤を使用して清掃した後は、大量の水で洗剤を完全に洗い落としてください。洗剤の成分が残っていると、プラスチック部品が損傷するおそれがあります。
- 高圧洗車機やスチーム洗浄機は使用しないでください。水が侵入し、故障の原因となることがあります。

要 点

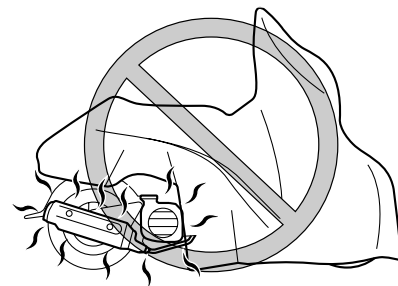
洗車後、雨天走行後、または湿度が高い天候のときなど、ヘッドライトのレンズが曇ることがあります。このような曇りは、ヘッド

ライトを短時間点灯することで自然に取れます。

保管のしかた

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカバーをかけてください。

なお、ボディーカバーはエンジンやマフラーが冷えてからかけてください。



注 意

長期間お乗りにならないときは、以下のこと

車のお手入れ

を守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。(マット塗装部分を除く) サビを防ぐ効果があります。
 - バッテリーを取り外し、充電器で満充電にした後、湿気のない涼しい場所に保管してください。また、バッテリーの劣化を抑えるため、3 か月ごとに補充電を行ってください。
 - 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。
- ※補充電については、ヤマハ販売店にご相談ください。

アフターケア用品について

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

ヤマルーブ ミニスクーター

摩擦低減剤（フリクション・モディファイヤー）を配合し、ハイパフォーマンスを具現化した、4 ストロークミニスクーター専用の高性能オイルです。



ヤマルーブ ロングライフクーラント

水冷専用。過酷な状況でも安定した冷却効果と優れた防錆、防食力のある不凍液です。



ヤマルーブ ギヤオイル

ミッションギヤ潤滑用。極圧性が良く、また油膜強度も高く、酸化安定性にすぐれ、ベアリングの腐食や摩耗を防ぐアワ立ち性がきわめて少ない特性をもっています。



JAU28361

ユニコンカークリーム（ワックス）

塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装にも使用できる伸びのよいワックスです。



ヤマルーブ 防錆潤滑浸透剤

防錆、潤滑、防湿、浸透性に優れた金属保護液です。



製品仕様

JAU50912

寸法

全長
1865 mm
全幅
740 mm
全高
1060 mm
シート高
715 mm
軸間距離
1280 mm
最低地上高
105 mm

重量

車両重量
104 kg
乗車定員
1 名

性能

定地燃費 (国土交通省届出値)
57.0 km/L/30 km/h
最小回転半径
1800 mm
最高出力
3.1 kW@8250 r/min (4.2
PS@8250 r/min)

最大トルク

3.90 Nm@6500 r/min (0.40
kgf-m@6500 r/min)

エンジン

原動機種類
4ストローク水冷SOHC
気筒数・配列
単気筒
総排気量
49 cm³
内径 x 行程
38.0 x 43.5 mm
圧縮比
12.00 : 1
エアフィルターエレメント
湿式ろ紙
クラッチ形式
乾式内拵重錘式
変速機形式
Vベルト式無段変速
始動方式
セル・キック併用式

エレクトリカル

点火方式
TCI

車体

フレーム形式
バックボーン
キャスター
26.00°
トレール
78.0 mm

ステアリングシステム

ハンドル切れ角 (左)
50.0°
ハンドル切れ角 (右)
50.0°

燃料

フューエルタンク容量
7.5 L

フロントブレーキ

ブレーキ形式
機械式ドラムブレーキ

リヤブレーキ

ブレーキ形式
機械式ドラムブレーキ

懸架方式

種類 (前)
テレスコピック
種類 (後)
ユニットスイング

緩衝方式

ショックアブソーバータイプ (前)
コイルスプリング / オイルダンパー
ショックアブソーバータイプ (後)
コイルスプリング / オイルダンパー

フロントタイヤ

種類
チューブレス
サイズ
90 / 90 - 12 44J
メーカー / 銘柄
DUNLOP / K378 FA

リヤタイヤ

種類
チューブレス
サイズ
110 / 90 - 10 51J
メーカー / 銘柄
DUNLOP / K378B

トランスミッション

1 次減速比
1.000
2 次減速比
15 (52/13x45/12)
変速比
2.775-0.864 :1

ヘッドライト

ヘッドライト球
ハロゲンバルブ

バルブワット数 x 個数

ヘッドライト
12 V, 35 W/35 W x 1
テール / ブレーキランプ
12 V, 5.0 W/18.0 W x 1
方向指示灯 (前)
12 V, 10.0 W x 2
方向指示灯 (後)
12 V, 10.0 W x 2
メーター灯
12 V, 1.7 W x 1
手元灯
12 V, 3.4 W x 1

パイロットランプワット数 x 個数

速度警告灯
14 V, 3.0 W x 1
冷却水温警告灯
12 V, 1.7 W x 1
エンジン警告灯
12 V, 1.7 W x 1

エンジンオイル

推奨オイル
ヤマルーブ ミニスクーター

定期交換時

0.80 L

ファイナルギヤオイル

指定オイル
ヤマルーブ ギヤオイル
オイル量
0.10 L

クーリングシステム

リザーブタンク容量 (FULL レベル)
0.26 L
冷却水容量 (ラジエーターと全ての経路)
0.26 L

ブレーキレバーとブレーキペダル

フロントブレーキレバー遊び
10.0-20.0 mm
リヤブレーキペダル遊び
10.0-15.0 mm
スロットルケーブル遊び
1.5-3.5 mm

フロントドラムブレーキ

ライニング厚さ
4.0 mm
使用限度
2.0 mm

製品仕様

リヤドラムブレーキ

ライニング厚さ

4.0 mm

使用限度

2.0 mm

ホイールトラベル

ホイールトラベル (前)

76.0 mm

ホイールトラベル (後)

74.0 mm

タイヤ空気圧 (冷間時)

前輪 (1 名乗車)

150 kPa (1.50 kgf/cm²)

後輪 (1 名乗車)

175 kPa (1.75 kgf/cm²)

バッテリー

バッテリー型式

YTX5L-BS

バッテリー容量

12 V, 4.0 Ah

点火タイミング

点火時期 (B. T. D. C.)

10 ° /2100 r/min

スパークプラグ

メーカー / 型式

NGK/CR8E

プラグギャップ

0.7-0.8 mm

ヒューズ容量

メイン

15.0 A

二輪車を廃棄する場合は？

廃棄を希望する場合は？

廃棄を希望される二輪車がある場合は、お近くの「廃棄二輪車取扱店」にご相談ください。

廃棄二輪車取扱店とは？

(社) 全国軽自動車協会連合会の登録販売店で、広域廃棄物処理指定業指定店として登録されているお店が「廃棄二輪車取扱店」です。廃棄二輪車を適正処理するための窓口として、店頭「廃棄二輪車取扱店の証」が表示されています。



1

1. 廃棄二輪車取扱店の証

JAU36640

リサイクル費用とは？

廃棄二輪車を適正に処理し、再資源化する費用です。二輪車リサイクルマークが車体に貼付されている二輪車は、リサイクル費用をメーカー希望小売価格に含んでいますので、リサイクル料金はいただきません。

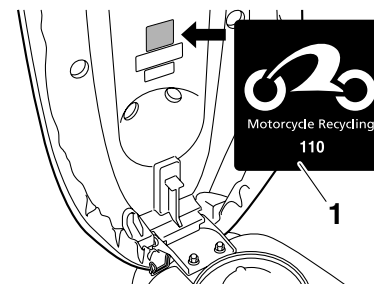
ただし、リサイクル費用には運搬および収集料金は含まれていませんので、廃棄二輪車取扱店または指定引取場所までの運搬・収集料金は、お客様の負担になります。運搬・収集料金につきましては、廃棄二輪車取扱店にご相談ください。

二輪車リサイクルマークの取り扱い

この車には、下図の位置に二輪車リサイクルマークが貼付されています。

廃棄時に二輪車リサイクルマークの有無を確認しますので、絶対に剥がさないでください。二輪車リサイクルマークは、剥がれや破損による再発行、部品販売の取り扱いはございません。

剥がれや破損でリサイクルマーク付き対象車かどうかが不明の場合は、下記へお問い合わせください。



1. 二輪車リサイクルマーク

廃棄二輪車に関するお問い合わせについて

廃棄二輪車に関するお問い合わせは、最寄りの「廃棄二輪車取扱店」または下記へお問い合わせください。

(財) 自動車リサイクル促進センターホームページ

<http://www.jarc.or.jp/>

二輪車リサイクルコールセンター

電話番号 03-3598-8075

受付時間 9時30分～17時00分(土・日・祝日・年末年始等を除く)

ユーザー情報

JAU28371

サービスマニュアル（別売）の紹介

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

ギア BX50/BX50N

サービスマニュアル 部品番号

基本版：QQS-CLT-000-10B

追補版：QQS-CLT-011-10B

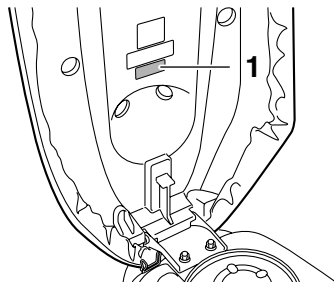
※追補版は、マイナーチェンジなどで機構に変更があったときに、その変更部分のみを説明したサービスマニュアルです。基本版とあわせてご使用ください。

車両情報 モデルラベル

パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、トランク内に貼り付けてあります。



1. モデルラベル

JAU50230

あなたの車の情報を記入し、控えにしてください。

車名は

ギア BX50N

モデルラベル

製品仕様を示しています。

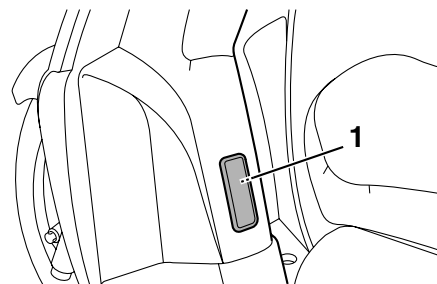
○

カラーリングを示しています。

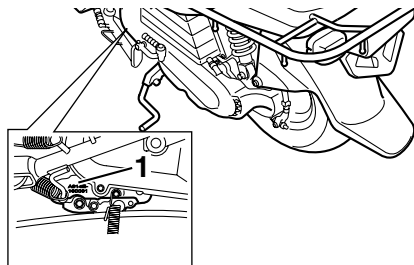
●

車台番号、原動機番号、型式認定番号
ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用
します。

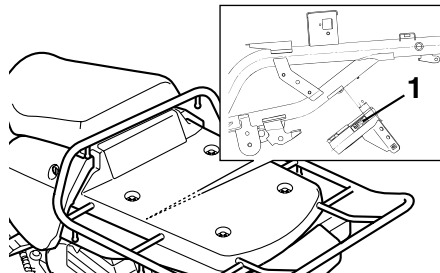
詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



1. 車台番号



1. 原動機番号

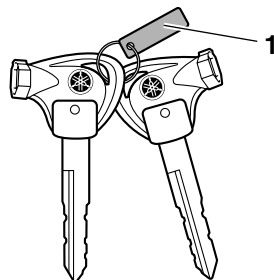


1. 型式認定番号

キー番号

キーを紛失または破損して、補修用のキーを注文するときに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



1. キー番号

キー番号記入欄：

索引

あ	あなた自身のために..... 1-1	車体各部の給油脂状態の点検..... 6-11	ひ	ヒューズの交換..... 6-13
	アフターケア用品について..... 7-3	車両情報..... 9-2	ふ	
う		書類入れ..... 3-9	ファイナルギヤオイルの交換時期.... 6-4	
	運行において異常が認められた	す	フューエルタンクキャップ..... 3-7	
	箇所の点検..... 6-14	スタンディングハンドル..... 3-11	ブレーキ..... 5-4	
え		スピードメーターユニット..... 3-4	ブレーキシューの磨耗点検..... 6-10	
	エアクリーナエレメントの交換..... 6-6	せ	ブレーキレバーの遊び／ブレーキ	
	エンジンオイル..... 6-3	洗車..... 7-1	ペダルの遊び、およびブレーキ	
	エンジン始動..... 5-1	た	のきき具合の点検..... 6-9	
	エンジンのかかり具合、異音の	タイヤ..... 6-7	フロントバスケット..... 3-9	
	点検..... 6-4	ち	フロントブレーキレバー..... 3-6	
か		駐車..... 5-5	へ	
	加速と減速..... 5-3	て	ヘルメットホルダー..... 3-9	
	カバーの取り外し、取り付け..... 6-2	低速、加速の状態の点検..... 6-4	ほ	
	環境・住民の方との調和のために.... 1-6	点検整備の実施..... 6-1	保管のしかた..... 7-2	
き		灯火装置および方向指示灯の	歩行者と他の車のために..... 1-5	
	キーシャッター..... 3-3	点検..... 6-14	め	
	キーの取り扱い..... 3-1	な	メインスイッチ..... 3-1	
	キックスターター..... 3-8	ならし運転..... 5-4	り	
け		に	リヤキャリア..... 3-10	
	警告灯と表示灯..... 3-3	日常点検箇所／点検内容..... 4-1	リヤブレーキペダル..... 3-6	
こ		日常点検の実施..... 4-1	れ	
	こんなときは..... 6-15	二輪車を廃棄する場合は？..... 9-1	冷却水..... 6-5	
	コンビニフック..... 3-10	ね	冷却水の補充..... 6-6	
さ		燃料..... 3-8		
	サービスマニュアル（別売）の	は		
	紹介..... 9-2	パーキングロック..... 3-10		
	サイドスタンド..... 3-12	バックミラー..... 6-10		
し		発進..... 5-2		
	シートの開閉..... 3-8	バッテリー..... 6-11		
		ハンドルスイッチ..... 3-5		

あなたの街のあなたのお店

最寄のお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。



QQS-CLT-112-10B

PRINTED IN TAIWAN
2012.02-0.7 × 1 
(J)